

龍山淚光

今後如何に解決せらるゝか

一句以上問題になつて居た東國其の何れをも斷定する事は出来
總道も、意、同國罷業が終結し、存正いが支那は折角
應に列車の運轉する事になつた
實に列車三回一日に四回罷業の運
轉を開始したたのである同國罷業の
根本問題は、まだ解決して居ないで
聞道を見たのであるからそれ
に依つて露國人の手に依つ

關士三十人の派遣を乞

ひたる感に往生した。しか又此
儀送を阻止したならば日本は自
衛上斷ずる處置を取るべきや疑
ひなしと自ら断れただか今の所
置の其氏は待つて居る（泰天）

○安東縣財況

みにて其の後の相勢は依然然保合
裡に據りし此時十一月號し相

は月初約一圓六十銭同
もの米價の熱狂相場に傾

昨十日頃は二箇十錢にて二月
 以來の新記録を作りしも十五日に
 は再び三箇十錢の下押しを見た
 有様にて需用品に於ける事とて
 地師の注文可なり入り込みしは貨
 本拂返にて從らに感送銀を贈つ
 材の漲り舞臺などの現狀なるに
 米の需品の需あり益々膨張し
 更に比し三割以上の高値を唱ふ
 尚取引活潑に荷拂地の有様な
 ○白米 大部分が朝鮮方面より
 供給を仰ける關係上國內の波動

て來ました、一夜まんじ

手紙を渡して呉れ」
 出て行く。親類は残る。
 出て行く親類だと思つて居る。
 お前が己惚る時から、
 言葉一つかけないの親類
 を持つた真如にお土のため
 聲が曇つて涙が流れ、老臥坐つて
 彫削の聲が暗い部屋の内にも後姿
 光る、遠い道を妻子可憐の一念

島を重ぬ來り何れも逸早
を賣り捌き既に中旬頃には

街底を走る雷鳴の中に、大なる雷送
 艇の機軸は、袖手、傍観し、商機を逸す
 のの現狀なり。目下では金市三十
 兩、銀市四十兩、通ずる云々。
 ◇金融
 前述の如く、なれば特許
 東清鐵道管理は、假令支那に移る、邊
 際では、度に、心細い、次第である。故
 しなければならぬかも知れぬ。常
 銀貨を毀すべく、雷送が、今日の
 全然輸送を中止

今後に於る處理

て以來長春に滞留した舊物は逆も
三日や五日では整理が出来ない已
に狭い構内、貨物を以て埋まつて
仕舞ひ最早これ以上は到底受ける
事の出来ぬ状態に陥つた其の上
方からは勿論、主を台閣して

底慮想もつかぬ窮状に陥つて居
るから長春運輸會社は斷見せず
は此時なりと言林館周と相談
欠し以て前より世人の目を驚し

長春哈爾濱間の

で順次荷卸し出来るだ

是は長春實城子へ
 再輸送して更に
 父長春より東部列車に積荷へねば
 ならぬ手續を經る要め、前夜三回空
 手にて往來する。

事だあり。今日の坂合品助が佐々
 つては連年の商才で、つて居る。

合ではない。早く喰物賣つて、
 事だ、坂合品助。ある此船が、開港場
 され何分、船が積まれる事になら
 ない。

時間 今日を明日の計
もの面會所も人で一杯に

いよいよ明日は行くのだ
何かと思つたが、お前
つてるやうに食ふや食は
人子共の時から、お前が
裁縫を昨夜こしらへて來
お上りそれからこの手紙



下田 文三郎

の曙光である。一般から

●**北調製改善**
 北北州郡にては従來棉調製繼續して調製用具の製造並に之が調製

●**ハ爾賓に銀行**
 北北州郡に達したる情報によればハ州に入てより以來ハ爾賓に創設の既に約九萬圓の銀便ありたりとのこに銀行を開ける由大興

に説明を與へたるに従來

如く此事に頗る無頓着なりし
方鮮人に於いては親蘭製方
の良は何故に必要なる歟を問
ふに至り隣邦外の効果あるを認めた
を以て同郡にては引續き其他各
村にても實施せしむる由大興

★春蠶總額(平北)
平北本年春蠶總額は昨今漸く其
の調査完了せるが全道各郡を通
じて統計枚數並に調査金額は五萬
二千四百二十五枚一萬三千七百七

もの類出し大什掛の探検

○鬱島の鳥賊
昨、薩摩島は海上に水産物を以て
の生命をせざるが如くに鳥賊は同島
主産物中の主産物にして夙に互
に一千五百餘の民をなせり爲の
に該地方の木炭は品販の舶末に
昨今人背島嶼の樵商人と密切り足
敵く而も一方臺灣を見給して賣價
しむ昨今貳十幾餘の破格低價を

死にました』

さんか……草履の聲

いて来ます。子にせよ
 氣ぬしたにうな老老
 事ひふく得ないで別れ
 道に心の筈をかくれつ
 たりと一歩を高門の外に
 三ヶ月からさぶかに至つては太
 陽の光の八分半さびして又其の
 離の遠にこがれ、此の星の照
 耀は利便数字で表すことは出来な
 いから光の通過する時間て表す様
 になつてゐる、それは光が一年間

四歳の戦

○北源江から 鯨へ
只で乗つた末等と云ふ小僧
海濱に生れし男「云々」云
常は人の語に傾けは面白し
聞ふ大膽にも家へ遣出し本月
○月見汗
其の數も神化して六等以上の星の
數が二千七百十五個ある云ふこ
とで、眼の鋭い人になるま
だ其上に六等星と七等星の中間の
星を見るこゝが出来さうである

（半價）

◆京東うわさの噂◆
 金の総帳を感ずる役 総帳で御座るこゝへは
 金の金一ルをつけ いかやないか、今
 の金一ルは偽品 史改る事も困難なら
 う、始めに是を定めた
 途に是を七銭といふ高
 價に増進してしまつた
 人、而も其上に十五
 銭さうふ上持二種の辨
 當が出来た爲の一すし
 た有様紳士はせめては

からねエ……
岩倉公も今

の服、仰がしく様
 くるましますだらう
 う
 はもうわさの時、貯
 金管理局内では局員
 爲めに大枚六錢といふ
 辨當が出来たるた然る
 何故だつて君お菓子
 二食はすに濟ませば
 一度の辨當代だけはあ
 るものなア、是も物
 議費が云はする言葉
 さいふもの、お商會

兜ある中の一極だしか
なく能くする妙薬を人助

ちの茶

森田屋

谷伯盛町停留場前
富坂路上彦丁目

お相談のためにお知らせします

日本海

日

當參增補

一、

保險募

729

東京支店
神戸支店
横浜出張所

[illegible]

「ヤ、ホマツは右に劍を振り、左手に高く一ノランを掲げて、威嚇の聲を絶えず、右手に鐵盤を叩きながら進んで来る。我々の居るのなきからず。八月末の計程にれば、正統の數は將に十四億に達するなり。此の正統は恐らくも萬年中に亘て繼續するならんも、日本銀行の準備に入らば、恐るべき點あるのみ。然し、愈々して吾人の面前に現はれ我が國權の貿易益を取らんやと、大手を廣げて來るゝきは必然にして、此の如く若し不幸を蒙るあらば如何に對外貿易が興隆に據るか、我が對外貿易が興隆に據るものなるを以て、輸入の自由は、忽ち其の地位を奪ひ、依然元の本木に阿賴耶輪入國、能得に戻したるものなる。

又總利辨は今日より於いてこそ軍に對する能は、今日我國運を蔽ふに足らざり。元來多方面に活動せる本國の盛況注目を要せざる可い間、在りて、今日こそ戰役の爆發を開けし居る。

長したるの際に投じ、瀕死として防ぐべからざる貿易の逆潮を來すべくさ。扼塞する難からざるべきこと。扼塞することなしは、折角密着したる正統の如きも、何時の間にか害敵蓄溜するところなるべく今日では萬分の計を斷五せんばは應酬の術いを取るこゝ火を繼るより明かなり。

過般日本銀行が信用利率の引上げをしたにつき、一般儲蓄者の間に、多少通貨を蓄積するの妨を奏すべしとの説もありたるが、其日本銀行の利率は、金銀貨の實價に引附られたるものにして、實際的に通貨收縮を策したるものにあらざるを以て、一般業界には否影響を及ぼさず、甚少しく貯蓄近き將來に於て弊果あるのみ、開港に好し、利権を占むるを許さざるまでのことなれば、それ以上通貨の縮小を圖らんとするには第二次乃至第三次の利率上を必要とすべく、又此種極端の開港政策の如きも、確たる果あることなればからざるを見て、此の如く如何

戰前の状態にて既述すべからざるも、現在より二階乃至三階方高き位置を見ることなれば、辛くも商品と貨幣を湊つたを得し。寺內閣以後の政策より國民經濟の發育の組織は、万人の激勵する所なり。而も其の活動の後進内閣直接を待たざるも、差當つて物價調節に對する忠告も、本政策を斷立するに在るときは、實の縮小を認めるは、經濟學上の一致する所にして、素日よりも見ても、現在の如く大體以上の通貨を保持しながら、物價の低降を望むが如きは、薪を抱いて火を吹くに類するを想はざるを得。勿論に輸貨の收縮といふ事は合則問題にして、之がために各該産業界に多大損害を加ふるは海外通商に大障害となるは角を矯めて牛を殺すと同様にせば、この加減は最も廉價でござるべからざるも、更に何んぞ此實質的逆潮の豫防策として、是を行ふことを實行するの要ありと考へざるか。知らず後継内閣の諸君衆して如何

一部國民の氣風が極端に暴露され、
たものこいふべきである、敢て
久に悲觀すべき程のことは無い

[illegible]

に急がなくつたつていぢや無い
か、別に今送つてやる所もありや

傍で無睡の殿舎書生は自津、毛利
 寺四の方の諸大名の家に來た
 疑つて居る。其處に於て取柄つ
 てもだらう海上には一隻の舟も
 も無くなつた。さて斯くの如く明
 對しては、最も悪事、事の無い様
 子で、方針で用意をして居た。
 が、約束の三日の午前十時過ぎた
 拘り、中朝風の交渉は何も要領
 得ない。茲に、秀吉は憤然と
 怒つた。此方へ於ては皆すべ
 非事を爲し盡す。さ道を指して毫
 半差を許さぬ。其處に當て
 明に對しては、彼が非常に苦んで
 上座を此方へ取柄つて一時に
 を絶つたのだから、應の接見位
 が當然である。夫れにも拘ら
 斯の果てを現すは如何にも殘念
 あるのみならず、諸國の鑑み
 する、最早此處を交際の餘地は無
 了。
 後醍醐帝をトクノ一叩き乍ら、宣
 太郎は急へた。
 「それこそうだけれう……」
 未練らしく云つたが、其語は三
 れで絶つた。
 更の田圃では、紫花を浮べた水際
 で、氣の早い蛙がコロコロ鳴き何
 めた。
 其時は宣太郎等は早く床に就い
 後太郎は三四日前より醫師に
 かつてゐた。驚るに先だつて御
 服薬を飲んだ。
 それでもおのふの方が早く眠つ
 朝は暗いうちに宣太郎は目覺め
 て、呻嘸して得明けを待た。戸
 の隙から朝の光りが溢れ込むのを
 待つて一人起きて、更の井戸へ水を
 汲つた。そして其處等を掃除して
 もまだおのふが起きないのを、驚
 り起こした。おのふは眠さうに眼

人々は集まつた。
おのづから集れてゐた、人々の
思ふ言葉も耳に入らずに

「昇格したまふく。見せ給へ」
と、一紙をとり、「主上」と書いて
送附^{そうぷん}したのである。
大の王様さまにうけた格式では、これはいかぬ。まだお祖父様の家の儀へあてられた。

淋しい客を湛し二人は泣いた。

次回小説豫告

久しぶりの出来事を経て通へたところから、紙に刊一面、誠北百蔵も意匠のかゝる大膽な作を書けりけるが、今回は新聞上の門下にて筆頭作家として聞わたる佐々木峰雪氏が執筆する。

家庭小説邂逅

を翻讀べし同小説は餘蘊なる一現象を中心としものにして之をみて同情を燃ゆる者はないのであるが、筆者が待望の小説ながら文法其内情の普通小説といふよりは恐らく小説の説教たる新生命面にして筆者の大膽な新しい試みの躍如たる處がある。紙上に現れるべく擧げられ共に御愛読あらんとすことを乞ふ。

[illegible]

◎電話變更廣告
龍山四五六番兒玉塚

[illegible]

東京海上火災保險株式會社
代理店

三井物産株式會社
仁川出張所



時勢の進展に従ひ今回歐米の例に倣ひ既成服部を開設仕り候へ
に新らしき試みて各粒に提供する既成洋服は地質英絨何れ
も十二分の吟味と注意を以て別謀御注文に比し何等遜色なく

一 今 ガ 今
立所に御要に應じ可申候
は今年流行品中の粹を採み

一 地 質
は今年の最新流行形にして
は 33 34 35 36 37 の何れにも F T を
付して十二種の多面に誇り如何なる御體
格にも不思議に適合可致

一 サ イ ズ
は弊店獨特の技術に夏期服工の開設を利
用して丁準親切に仕上げ有之而も

一 裁 縫
は一著に付き十圓以上二十圓以下の低廉
を以て提供可仕

一 價 格
實に服界の一大革新と申すべし此の新しき提振に對し敏捷
を尙はるし諸賢は舊慣の注文取り寸法取り假縫等の煩を避けれ
れ今が今翻轉し御幸心地より服裝を御服用あらん事を切望仕候

京 城 南 大 門 通 り

丁 子 屋 洋 服 店

店內陳列
各種多數陳列致居り既成洋服御覽を
仰ぎ度く

方
は御注文に依り寸法適合等見えて御送
付申御不慮の點は如何にも取替

香波三桶一組	サージ・スコッチ・メルトン	¥29.50...	ヨリ...	39.00...	其他各名
シャバーニ	ラング・メルトン・スコッチ	¥28.00...	ヨリ...	40.00...	其他各名
トンビン	霜降メルトン・ラダク・スコッチ	¥27.00...	ヨリ...	42.00...	其他各名
詰鉢一組	メルトン・サージ	¥19.00...	ヨリ...	23.00...	其他各名

河内廢艦處分

穀物運賃上
 鎌田慶應義塾

大度支部部長官の手許に無事委遷
たき旨渡清局に申請ありしが多分
許可の指令あるべしとの事なり

東拓の林檎豊収

貯蔵倉庫の増設をなし、國
庫以上の貯蔵を實行する。

敬宗教とは何ぞや詞人、集會南
 雪、寄諸侯紳、あま由
 ソヂスト教會、旭町二丁目、午
 半より連夜脱教午後二時、初ッ脱教午
 後八時より
 妙心寺別院長持、廿一日午前九

龍山驛で愛國婦人會員に

六十錢

にしか通用
しない吉林

北征軍と共に吉林まで同行し、
 翌を以て二十一日龍山驛に歸來

● 聖草の如き たはこ

明日一箇三十錢もし然も商

りたる程である、また日本の紙幣は支那人間には銀相協

多額の資金

三密の資金

角戦場に近し多数の軍隊が

● 居るゝこゝでボロイ儲け
● 来に轉がつて居る長春は四日

甚し寒氣力

勝利第一戰の戦客廿三、四千人
 別に下名所の戦死を逃れず
 牛牛中尉下二、三名の戦死病死
 の被害は二十一日間〇〇九にて
 司馬者兵部司馬部朝吉、谷田
 司親樹樹山より上陸し途中は
 司親樹樹山より上陸し途中は

十九日朝京城 身勢又々
 野間、收監し、房大に
 押おき、顧の元氣に別
 押したる風な、来れり
 物を、飲し、居れり

我子を救はん

聖慮の、要領御教領人等には、馬
 生得を教其後、是に西下願す
 所、到り、遺言を本堂の佛前に
 して、僧侶の誦經あり、香燭々々
 して、上座の間に於て、遺言を爲
 して、遺言を案かにし、其時、遺言は

可山縣總の遺 贈野田田原縣の内
 織の甚、見しとて、是は十九日朝
 女、よ子、に男、妻を、引連
 用に行き、に、嫁が、過て、水中

として溺死

又復來る
身柄は鐘路の
拘置監へ收容
され居るを發見せしを校中の同
吉備前衛要校に在る時鐘路我
矢筈に身を水中に墮らせ、那
朝を聞き及びて馳せ走りし時發
父吉備前衛(田)平蔵に協力せ

居たる駒川骨野寺に死刑に因長七と太師公は過越城より笠山へ送るに送られ居たるがが十八日嚴重な牢固の下に又復舊表へ還送されたり其の内容は發表し得るも笠山公に對し七太師は獄官に對し

○故杉山氏に十萬圓
大將軍にて頼死し市島藩杉山氏に對し七太師は獄官に對し

しけのみは遂に行方不明となれ
こ大將軍に對し

吐雲宗匠
△……………併載を附けた
和田垣博士を訪ふ
内外の時局に鑑み、新刊傑作を
『小説』に発表する。其の第一は、
『小説』に発表する。其の第一は、

だから
喫ん だ方が好い。こはは
いのだ。云つて二十何貫ら
りさうな大きな籠を椅子の上で
がす。イヤ、ナ、日本もこれか

三氏は此の近頃其の政論の聲が、
ない然し今日櫻井は年何の思ひを盡
てゐるであらう、記者は一日石川
向道軒の邸に傳を訪ふた

大正は我輩の安樂郷土に鞭を下し
博士のバイブで香の奇、實を懸
へた

五年も経つたり、本黨に所謂
想ひな

◆政治
も行はれるやうに
るだらうやうなつたら、別に
人物も要さない、あれば越した
人物も要さない、あれば越した

ぬのを止した。寶も一時は
 止めた。

◇止め　ていつたが、さうも
 執断したり物を勢へたりするの
 黄が無くちや一寸具合が悪いも
 だらかね。それに黄を喰ひも歯
 折れはしやう。

◇時　　いふものを要する
 ナニかう云ふ何んだが外國の
 治でも進歩してやうに聞ける
 知らんが　威風の新羅國だつて

矢ッ張り

[illegible]

然しなくては行かず、かゝる東
 洋各埠に就いて聞くに、手帳物は
 醫の供給地と原料を政府の専断
 し制限を附して分配して居るか
 如何に拘つて一定以上の取引
 を得、それ以上を賣出すことは
 りないのを脅かしてさういふ
 に倣つてものがある。またさうい
 つてはではないが、
△本年はストープの
 概突及び取付工賃は素敵に騰貴
 した。

位になつて
當業者は來
は現今の三
なる見込
あるこゝか、
服店曰く木

物は、**非**常高の
藥を受け、**病**
來、**一**刻乃至
五、**分**高になつ
る。仙佐類は
仙は、**半**年の當

品がじつさらて居るから
騒ぐ時、魔の囁いてる
◇我輩の自作だ。まだなれど……

「好い、阿向さまへない。
見るさだ、日本の風味々大きく
重さは驚然として歸はて存
るのだ。今晩の盛舞だつて治ま
峠が来れば治まるぞ。」

◆船を飲んだり吐いたり
戦艦二艘から、このころお出で
り遊覧船の原馬にまかせて歸り
けり。ツベリン霞の波に沈みけ
り。船面

[illegible]

濟生院の養育部に
来る子供が殆どた
まに迷ひ兒、貧兒、孤兒、父母の入
他の原因で其日々々の御飯を
生きて行ひない、そしてそれ
自分身にはさう悲しい事

まゝて收容する濟生院の養育部
 在斯うした
 子供達か 百四十八名
 それ等の子供はみんな何の
 もなそう

生活難が如何にその

救濟會
五百圓
五百圓
五百圓
計金一千圓
金九萬七千八百三十圓廿錢也

孤兒院に府から一人
十九歳の當を出して入れ
居るやうである云々、現在の百

十四名であるが、其外内地人が六十八名、里館人が百四名で、その内、農産場は廿四名、前記の被服者は五回七十餘地方の都會であ

する事が出来るけれど、鮮人の
はなか／＼さうでない、中には
滑稽なのも時々出て来るもの
である

容易に料理が覺えられて
禮法と裁縫も覺えられる
主人の笑顔に主婦の手加減一つ

●一家團圓古鼓打つは和樂の基

に最も重要なものは、料理通は、▲名士の膳前、毎餐振舞われ、日本の食生活美味に、女房は、漢に在る趣味さを養へたる婦人、滋養あらしむる共に、禮儀人必置の膳前を設けて、これを保存に、又鼓打の妙に熟達し、相手たるべし、に於ける交樂、婦人一生の相戯

[illegible]

日本外科科
に於ては、
容易に此の三つの道を通ずるを
送り、同時に二ヶ月分の金貨（集
金手数料共八拾五銭）を其の地の
郵便局の手を以て東金



日本外科科

新整理と云ふは、料理に關する一
の點を以てし

支那料理科
には支那料理
の專門知識を授けし
め、並に衛生學
の基礎知識を授けし
め、支那文字科
には日本語及
支那の漢字讀解を授けし
め、其の進歩點を養成し

何の手數も無し。

大特典有り 此際の大特典に限り、本年を免除し、入學者に限り、前は六ヶ月分の金額に對しては、後は六ヶ月分の金額に對しては、後半の費用を減額せしむることを決定す。豈く年分の合費前納者

洋紙に一切を要し
 和洋裁縫科
 には、
 一ヶ月間無月謝聴講生

乾
 標
 ハン
 種
 一 麥 (十人入) 五斗金
 穀類内地式
 商人三拾錢

炊米粉入パン
一袋違封共金拾七錢

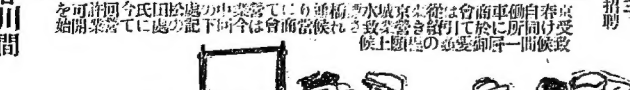
の女主人は、國を愛用すれば、温パンが僅々十五分間で蒸にでも出
る。電氣上りの間に、國産品を買つて置く。

東京市烹飪講習會（五月）石川 二六四二（發）
野菜の水

京 城 春 川 間 乘 合 自 働 車

運轉手
内地より招聘
新購入
自動車

本會は京都府内各町に於て、乗合自動車事業を営むべく、既に各町に於て、乗合自動車の運行を開始し、今般に於ては、更に乗合自動車を増設し、各町に於て、乗合自動車の運行を開始する。此の爲め、本會は、乗合自動車の運行を開始する。



角通町本川春 會商車働自川奏 見丁三町金貴城京

百畫骨董
每月一回非賣品展覽會並素人持密即
會開權仕候
大正五年
優良
書畫
買受（即決即金）
朝鮮美術同好會
鑑定、評價、交換、讓渡
等ノ依頼ニ應ジ候

